

インドの農薬最大手 UPL と提携

石原産業株式会社(“石原産業”)は、ユナイテッド フォスフォラス リミテッド(インド ムンバイ市)(“UPL”)と特定農薬原体の生産に係る契約書に署名し、且つインドならびにインド以外の一定諸国でのディストリビューションに関する業務提携の可能性を検討する。

UPL は、ISK により、ISK 開発の特定農薬の製造を委託されている。ISK、UPL ならびに三井物産は、インドでの ISK 製品(s)の開発、登録、および販売のために JV を設立する計画を持っている。更に、ISK、UPL ならびに三井物産は、インド以外の諸国での提携可能性についての討議を継続している。

石原産業は、研究開発(research and development)、特に新規化合物農薬の創製を志向しており、農薬製品の売上(2006年3月期 連結ベースで売上高 410 億円、経常利益 80 億円)のうち 90%強が自社開発製品である。石原産業は、農薬事業について新規剤 (IKF-916/シアゾファミド、IKI-220/フロニカミド)の寄与により、2009年3月期に連結ベースで売上高 480 億円、経常利益 90 億円を目標としている。石原産業は、新規殺菌剤(うどん粉病剤) IKF-309 (一般名は提案予定)の本格開発を 2006年シーズンから始めた。

石原産業は、研究開発(research and development)とならんで、モノづくり(化合物合成、製剤)からの利益と競争力を強化する新しい製造ビジネスモデルを実施することを意図している。

故に、石原産業は、生産立地(化合物合成)を多元化することにより、生産の安定性と競争性を強化する。既に、石原産業の農業化学品の多くは、日本のみならず、欧州、北米、韓国、中国ならびにブラジル現地生産されている。

新規化合物農薬を開発、商業化する費用が増大している一方で、世界で使用されている農薬の 70%は、オフパテント製品であると見積もられている。UPL は、農薬化合物生産の最も競争力のある 1 社として定評があり、現在、農薬業界で最も早く事業成長しているジェネリック農薬の会社である。過去数年、UPL は、異なった諸国で組織的に且つ化合物とディストリビューション会社(s)の獲得を通じて成長してきている。

石原産業および UPL について更なる情報は、www.iskweb.co.jp ならびに www.uplonline.com をご覧下さい。

以上